抄　録

第33回山口県脳血管障害研究会

日　　時：平成28年１月23日(土) 16：00～18：00
場　　所：ANAクラウンプラザホテル宇部２F
「弥生の間」
当番世話人：鶴田良介（救急・総合診療医学）
共　　催：山口県脳血管障害研究会ほか

【一般演題】

座長　山口大学大学院医学系研究科
救急・総合診療医学
准教授　小田泰崇 先生

１．長時間の一酸化炭素曝露により間欠型一酸化炭素中毒を発症した１例

山口大学医学部附属病院　先進救急医療センター
○中原貴志，井上智顕，宮内　崇，藤田　基，
小田泰崇，鶴田良介

症例は62歳男性．鬱病の既往があり，某日，練炭自殺を図り，当院へ救急搬送された．来院時所見，意識レベルJCS 100，GCS8（E3V1M4），リザーバーマスク10L/分投与下でSpO2 99%，CO-Hb：3.8%．急性一酸化炭素中毒としてはCO-Hb上昇は軽度であったが，曝露時間が不明で遷延性意識障害を認めており，高気圧酸素治療を施行することとした．急性期の治療として，来院後24時間以内に高気圧酸素治療を２回施行したところ，CO-Hbは１%に低下し，意識レベルはJCS 1まで改善した．Day2の頭部MRI検査では，DWIで両側淡蒼球に淡い高信号域を認めた．Day6に精神科へ転科となり，Day12より反応が低下し，認知機能障害を認めたため，間欠型一酸化炭素中毒と診断した．本症例では，来院時CO-Hb濃度が低いにもかかわらず間欠型一酸化炭素中毒を発症しており，来院時CO-Hb濃度だけではなく，推定曝露時間，曝露からの経過も考慮した予後の評価が重要である．

２．抗血栓療法中の頭蓋内出血に対する急性期治療

山口大学大学院医学系研究科　脳神経外科学
○篠山瑞也，石原秀行，奥　高行，貞廣浩和，
清平美和，山根亜希子，五島久陽，野村貞宏，
鈴木倫保

【背景】抗凝固療法中の出血性合併症におけるプロトロンビン複合体製剤（PCC）による拮抗は有用だとされている．当施設では2011年よりPCC投与基準を示したプロトコールに準じて抗凝固療法関連頭蓋内出血に対する急性期治療を行ってきた．プロトコール施行前後での臨床像を後ろ向きに検討した．
【結果】2008年１月から2015年９月までの間に48例の抗凝固療法関連頭蓋内出血症例の急性期治療を行った．内服薬としてはワーファリン32例（66.7%），ワーファリンと抗血小板剤との併用８例（16.7%），非ビタミンK依存性抗凝固薬８例（16.7%）であった．
プロトコール施行前は14例（29.2%），施行後は34例（70.8%）の症例があり，これらを比較検討した．急性期に新鮮凍結血漿（FFP）を投与したものはプロトコール施行前６例（42.9%），施行後11例（32.4%）で，施行後は24例（70.6%）でPCCを投与していた．初期対応として保存的治療を選択した症例はプロトコール施行前で11例（78.6%），施行後で17例（50%）であったが，その内経過観察中に血腫拡大が起こったものはそれぞれ３例（27.3%）と１例（2.9%）とプロトコール施行前に多い傾向にあった．またプロトコール施行前５例（35.7%），施行後18例（52.9%）で外科的介入がなされているが，術翌日のCTでの血腫再拡大は施行前３例（60%），施行後１例（5.6%）と，プロトコール施行後に有意に少なかった（p=0.0045）．
【結論】PCC投与プロトコール施行により保存的治療中に血腫が拡大する症例は減少する傾向にあった．また術後血腫再拡大を呈する症例は有意に減少した．

３．中枢神経限局性血管炎との鑑別を要した橋本脳症の69歳男性例

山口大学大学院医学系研究科　神経内科学
○本田真也，尾本雅俊，小笠原淳一，古賀道明，川井元晴，神田　隆

2014年９月頃から同じことを何度も聞くようになり，11月には独語が続き，日常生活に介助が必要となったため入院した．入院時，HDS-Rは７点で病識はなく，その他に神経学的異常はなかった．血液検査で抗サイログロブリン抗体，抗甲状腺抗体が上昇していた．頭部MRIでは両側基底核，左視床，両側島皮質下白質，両側前頭葉皮質直下，右前部帯状回に斑状のDWI等信号，ADC高信号，FLAIR高信号域を認めた．複数の血管支配域に病変がみられることから脳血管炎の可能性を考えたが，脳血管造影では異常はなかった．小血管主体の血管炎を想定したが，ステロイド治療は効果不十分であり，シクロホスファミドパルスを計６回追加することでHDS-Rは満点となり，頭部MRI所見は改善した．抗NAE抗体が陽性と判明し，最終的に橋本脳症と診断した．橋本脳症の病態として中枢神経の血管周囲の炎症細胞浸潤を証明した報告があり，本例のMRI所見は血管の炎症，浮腫を反映していると考えた．

【特別講演】

座長　山口大学大学院医学系研究科
　　救急・総合診療医学　　教授　鶴田良介 先生

「脳血管障害における救急脳波の有用性」

朝霞台中央総合病院　脳卒中・てんかんセンター
　　センター長　久保田有一 先生